

介護分野の人材確保

ワーク・ライフ・バランスの推進で介護分野の人材確保を目指す企業

東京都荒川区の有限会社ケア・プランニング(従業員45名、資本金1,000万円)は、介護職員を中心とする従業員のワーク・ライフ・バランスを実現し、人材確保に成功している企業である。同社の中原修二郎社長は、2002年に大学で福祉関係学科を卒業し社会福祉士の資格を取得した。当時は介護保険制度が始まって間もない時期であり、今後介護の需要が増大すると判断し、2003年に同社を創業した。同社の主な事業は、訪問介護や通所介護であるが、居宅介護支援、訪問看護、福祉用具のレンタル・販売等も手がけている。

度重なる介護保険制度の改定による介護報酬の減少で、好景気になると介護職員が他の職業へと転職することも多いため、介護福祉事業は人材確保が困難な業種である。同社は、その解決策として福利厚生の改善に取り組んできた。例えば、①70歳定年制を導入、②パートタイマーにも研修や健康診断の機会を提供、③介護が未経験の人にはホームヘルパー資格の取得を支援、④複数の資格を持つ社員にはできるだけ兼務を奨励、⑤実績を積んだパートタイマーは正社員に登用するなどの取組を行っている。また、介護が未経験の人を短期間雇用し、介護の仕事を経験させ、適性や能力等を見極めることができるトライアル雇用も活用している。

同社の中原社長は、「荒川区では、介護事業者連絡会と協力して、介護職員の研修に対し補助をしていたり、東京都では、雇用対策の一環として働きながら資格を取得できるように支援しているが、介護事業を展開していく上では、このような地方公共団体との連携が重要である。」と語る。同社は、こうした地方公共団体の各種支援制度等を利用することで経営の余裕が生まれ、人材確保や定着率向上に取り組むことができるようになった。



社内研修の風景